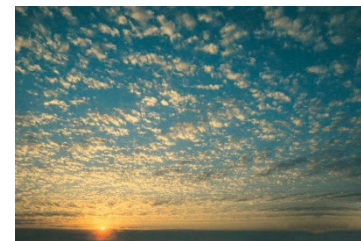
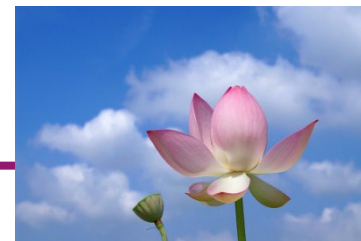
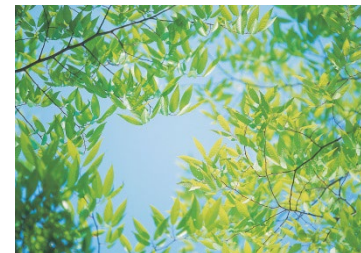


ASEAN諸国におけるプラスチック 政策の動向

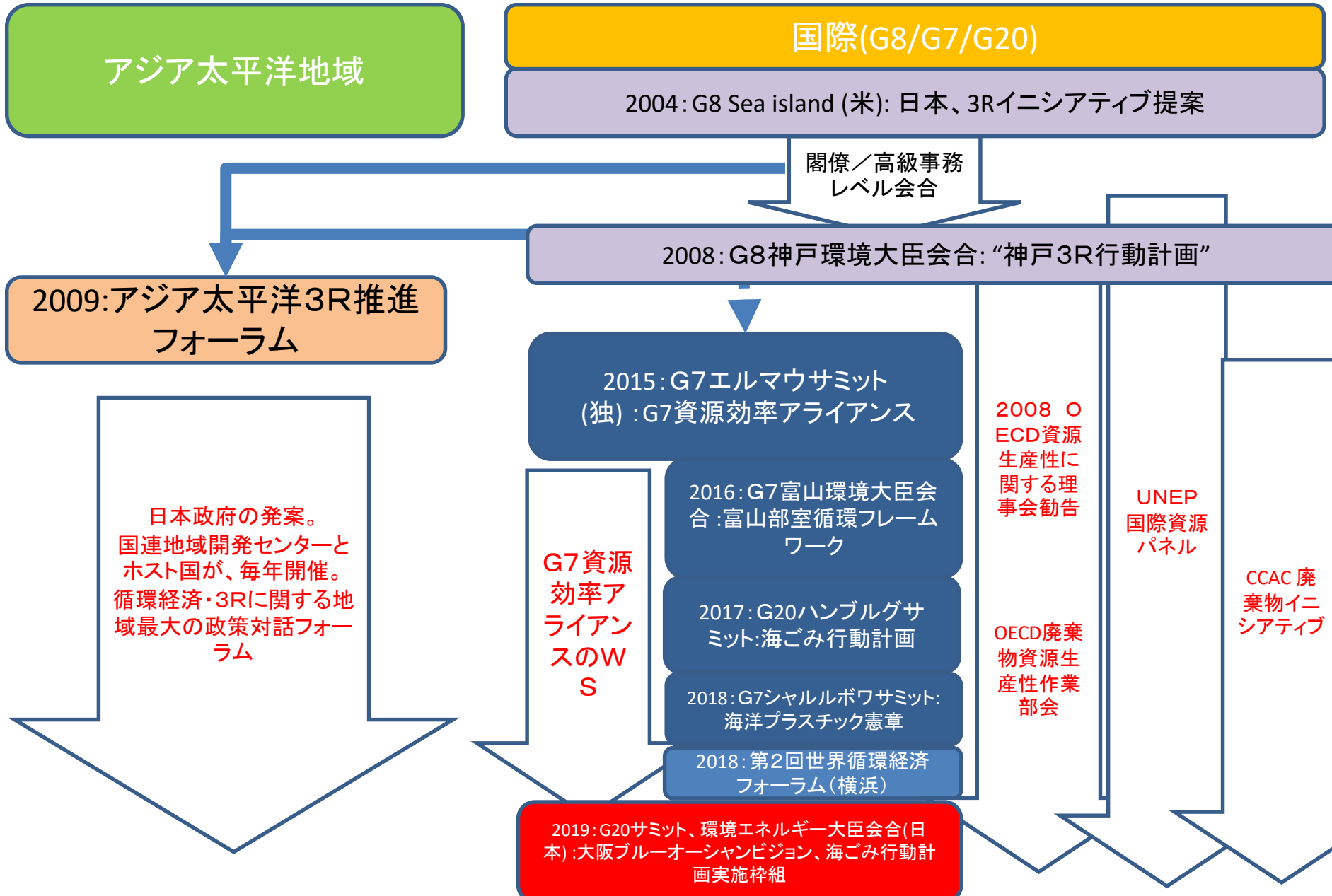
グローバルプラスチック合意へ向けた含意



堀田康彦 プログラムディレクター／上席研究員
(公財)地球環境戦略研究機関
持続可能な消費と生産領域

アジア太平洋持続可能な消費と生産円卓会議
(APRSCP)
副会長

資源循環・廃棄物問題を国際的な課題としてクローズアップしようとする動きが、2000年代初頭からある



途上国でのプラスチック汚染への注目

- 中国が、2018年から廃プラスチックの輸入規制を開始。プラスチックのリサイクルを中国に依存していた国々が困難に直面。アジア途上国に廃プラスチックが移動すると同時に、これらの国々でも規制強化の動き。
- アジア途上国の経済発展：プラスチック消費の増大、リサイクル可能なプラスチックの相対的価値の低下、観光・サービス産業への影響。
- Jambeck et al. 2015 が、海洋プラスチックの主要発生源として東アジア・東南アジア諸国を指摘。
- アジア（特に東南アジア諸国）は、観光産業に多くを依存する経済に（例えば、タイは、GDPの18－19％が観光業）。国際的な観光目的地として、イメージと環境の質を維持することに大きな関心。
- デジタル化の進展とコロナ禍の影響（新たなライフスタイル・消費パターン）で、使い捨てプラの消費拡大。

海洋プラスチックごみに関する国際動向 (2018 ～)

- **G7シャルルボワ・サミット (2018年6月：加)**
- 首脳コミュニケにおいて、プラスチックが経済及び日々の生活での重要な役割の一方で、海洋環境、生活及び潜在的に人間の健康に重大な脅威と認識、加、仏、独、伊、英及びECにより「海洋プラスチック憲章」を承認→ 先進国の取組拡大
- (←日米は承認せず)
- 2030年までに100%のプラスチックが、再使用可能、リサイクル可能又は実行可能な代替品が存在しない場合には、熱回収可能となるよう産業界と協力する
- 2030年までにプラスチック製品においてリサイクル素材の使用を少なくとも50%増加させるべく産業界と協力する。
- 2030年までにプラスチック包装の最低55%をリサイクル又は再使用し、2040年までには全てのプラスチックを熱回収含め100%有効利用するよう産業界及び政府の他のレベルと協力する。
- **第4回国連環境総会 (2019年3月：ナイロビ)**
- 「海洋プラスチックごみ及びマイクロプラスチック」に関する決議
- 「使い捨てプラスチック汚染対策」に関する決議 (←日米を含む国連環境総会メンバーの承認) → 途上国を含む国際的な取組の拡大

2019年 G20サミット（大阪）、G20環境エネルギー大臣会合（軽井沢）、G20資源効率対話（東京）

- G20サミット：大阪ブルーオーシャンビジョン（2019年6月）
- 「2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す」
- G20環境エネルギー大臣会合：G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組（2019年6月）
- 2017年に合意したG20海洋ごみ行動計画の各国での実施
- G20諸国間の行動の情報共有と継続的な情報更新
- 国際協力の推進
- ビジネスや科学と連携した革新的な解決策の推進
- 科学的情報と知見の共有
- NGOなどとの連携
- G20資源効率対話（2019年10月）
- G20海洋プラスチックごみ対策報告書の発表（IGESが取りまとめ支援）




2022年3月

国連環境総会(UNEA)において、2024年に法的拘束力を持つ国際合意の妥結に向けて交渉を開始することで合意。

- 持続可能な消費と生産
 - 国家行動計画(national action plan)
- 策定
- 科学・社会経済的評価
 - 途上国能力開発へ向けた国際協力
 - 関係者の連携
- などが柱？
- 数値目標や、製品・物質規制を含むものとなるかはまだ不透明。







持続可能な消費への変化

	これまでの考え方	今起きていること
<p>インフラ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 都市化と消費の増大 供給側の論理 物理的インフラ (道、鉄道、港湾、ダム、水道、廃棄物管理) 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルな連結性、オンラインプラットフォーム 多様化するライフスタイルとビジネス 消費者の連携 生活の質のための消費 
<p>技術・イノベーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> 技術移転 クリーンな製造 環境技術 効率性 	<ul style="list-style-type: none"> 社会イノベーション 社会のデジタル化 連結・価値創造 創造性 
<p>産業・ビジネス</p>	<ul style="list-style-type: none"> 製品政策 インフォーマルセクター (途上国) 国際的ブランド 	<ul style="list-style-type: none"> サービス、新たなビジネスモデルへの政策支援 フォーマル化、デジタル連結性を活用した起業 地元消費 

出典: Hotta, Tasaki (2020)
禁 転 載

持続可能な消費への変化

	これまでの考え方	今起きつつあること
<p>地域の発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大都市こそ！東京！NY！バンコク！ 高層化、発展 	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19の影響 大都市の地位は継続するのか？ 分散する中での新たな課題？ 密集するリスク 渋滞と効果的な集配 
<p>行動とライフスタイル</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行動変容と意識の向上 消費者の選択が生産者に影響 市場の拡大のための政策調和、障壁を取り除く 	<ul style="list-style-type: none"> システム変化 ライフスタイル ルールの変化と制度の変化が行動を変化させる 
<p>持続可能な消費と生産のありかた</p>	<ul style="list-style-type: none"> SCP1.0(汚染防止、廃棄物管理)、SCP2.0(効率性)およびSCP3.0(価値と充足性)がバラバラ 	<ul style="list-style-type: none"> 3バージョンの連携

出典:Hotta, Tasaki (2020) 禁 転載

途上国の抱える課題と機会

- 政府の能力と、関係省庁連携（しばしば、廃棄物管理、資源循環を支えるための枠組法が存在しない。不適切なフローへと循環資源が流れないようにするための規制が弱い。予算の配分。関係者の関与が不十分）
- **産業インフラと技術**（収集された循環資源の処理・リサイクルのための施設の体系的な建設・整備・育成が必要。技術移転の裏づけとして、**環境・資源循環政策が不可欠**）
- リサイクル市場の組織化（インフォーマルリサイクリングとの競争、資源価値のみに着目し他の持続可能性要素は軽視することで競争力）
- 廃棄物処理計画の策定と予算配分が結びついていない。
- 行政トップの政治判断による部分も大きい。
- 廃棄物・リサイクルにコストをかけるという認識が軽薄。

- **製品政策などで、新たな取組を導入しやすい。**
- **新たなデジタル技術革新のライフスタイルへの反映が早い。**

ASEANとEUの共同報告書「Circular Economy and Plastics (IGES編著)」でのASEAN地域レベルでの取り組みとしての提言内容

1. プラスチック、リサイクルプラスチックおよびプラスチック製品に関する技術基準の調和

- リサイクルされたポリマーの品質基準
- リサイクルされたプラスチックから作られた製品の性能基準
- 生分解性、生物由来プラスチックの定義

2. プラスチック利用の循環性に関するガイドライン

- プラスチックの利用回避と代替品の選択
- プラスチック選択の最適化
- 処理、収集、分別システム。リユースとリサイクルシステム
- 異なる種類のプラスチックのライフサイクルの理解に基づいて、より持続可能なプラスチックの代替品、異なるプラスチックの処理技術、分別と洗浄のための要求事項に関するガイダンス



3. 有害な添加物の段階的廃止

- 問題のあるプラスチックへの添加物を同定し、代替するための地域アプローチを開発する必要。

4. プラスチックの研究と技術革新のためのネットワーク

- 地域の専門家をプールし、技術革新と起業を促す。
- 使い捨てプラスチックの利用を削減もしくはなくすためのビジネスモデルもしくは、再利用可能なプラスチック用品の利活用を進めるビジネスモデル、もしくは高品質で利用価値の高い再生プラスチックへの製品利用を促すためのビジネスモデル

5. プラスチック汚染に関するASEAN協力枠組み(一部すでに実現)

- グローバルな政策動向に対して、ASEANとして連携してあたるための協力枠組み。ASEAN+3やCOBSEAとも調和することを考える。

ASEANの地域的なイニシアティブ

2017年11月 ASEAN海洋ごみに対する行動枠組（政策形成、研究・技術革新・能力開発、意識啓発・教育・広報、民間部門との連携：EPRや官民連携、上流政策などを強調）

2018年11月 東アジアサミット海洋プラスチックごみ対策に関する首脳宣言

2019年 EUとASEANによる報告書「循環経済とプラスチック：ASEAN加盟国でのギャップ分析」（IGESが編著 上掲）

2019年6月 ASEANの海洋ごみ対策のためのバンコク宣言（各国での取り組み強化、国際協力の強化など）

2020年 ASEAN海洋ごみ対策に関する地域行動計画（2021-2025）：世界銀行の支援で策定。ASEAN加盟国、国際機関の指針。タイが主導



ASEAN海洋ごみ対策に関する地域行動計画 (2021-2025)

以下の4分野での行動計画

1. 政策支援と形成

- ◆ プラスチック廃棄物管理への投資のための金融メカニズムに関するガイドの開発
- ◆ 一部使い捨てプラの段階的廃止へ向けた指針策定
- ◆ 責任ある廃プラスチック貿易、プラスチック廃棄物分別、およびリサイクルプラスチックに関する地域ガイダンス
- ◆ プラ容器とラベルに関する技術要件と基準開発における優良事例マニュアル
- ◆ グリーン公共調達に関する経験蓄積

2. 研究、技術革新、能力開発

- ◆ 海洋ごみの分析モニタリングの共通手法ガイド
- ◆ ASAEANの地域知識ネットワークの強化(シンクタンクや研究機関の連携強化)
- ◆ マイクロプラスチックに関する地域レベルでの研究
- ◆ プラスチックと廃棄物管理に関する地域の研究プログラムの調整

ASEAN Regional Action Plan for
COMBATING MARINE DEBRIS
in the ASEAN Member States
(2021-2025)



ASEAN海洋ごみ対策に関する地域行動計画 (2021-2025)

3. 意識啓発、教育、広報


- ◆ 行動変容のためのコミュニケーション戦略のガイド
- ◆ プラスチックと容器包装に関する消費者の意識の強化


4. 研究、技術革新、能力開発

- ◆ EPR知識支援および実施支援のための地域プラットフォームの設立
- ◆ プラスチック廃棄物管理に向けた技術革新および投資支援のための地域プラットフォームの設立

プラスチック問題対策に率先的に取り組む東アジア、東南アジア



バングラデッシュ
Towards a Multisectoral
Action Plan for Sustainable
Plastic Management in
Bangladesh 2021



ブルネイ
Development plan
for the healthy
and clean
environment


カンボジア
Process will start
(Many on-going)


中国
National Action Pan on
ecological environmental
protection


インド
Plastic Waste
Management
(Amendment) Rules, 2022


インドネシア
Indonesia's Plan of
Action on Marine Plastic
Debris 2017-2025



日本
National Action Plan
for Marine Plastic
Litter and Act on
Promotion of
Resource
Circulation for
Plastics



韓国
National Action Plan on
marine litter and marine
contaminated sediment


ラオス
Action plan for national
pollution control strategy


マレーシア
Malaysia's roadmap
towards zero -
single-use-plastics



ミャンマー
Process with
start (JAIF)



フィリピン
The National Plan of Action
for the Prevention,
Reduction and Management
of Marine Litter


シンガポール
Singapore's National
Action Strategy on
Marine Litter
(expected in 2022)


スリランカ
National
Action Plan on
Plastic Waste
Management
2021 - 2030


タイ
Thailand's Roadmap
on Plastic Waste
Management 2018-
2030


Action Plan on
Plastic Waste
Management Phase
I (2020-2022)


ベトナム
National Action Plan
for management of
marine plastic litter by
2030

策定もしくは実施済み	存在しない	一部存在もしくは実施予定
------------	-------	--------------

ASEAN諸国で実施されている代表的な政策例(2019年のASEANとEUによる報告書Circular Economy and Plastics: A Gap-Analysis in ASEAN Member Statesによる)

国	戦略	使い捨てプラの禁止	使い捨てプラへの課税や有料化	デポジット制度	拡大生産者責任に基づくリサイクル制度	分別回収	自主的取り組みやパイロット	輸入規制
ブルネイ							No Plastic Bag Everyday Initiative	3 Percent excise duty imposed on plastic imports
カンボジア			Sub-decree on management of plastic bags (2017)			Sub-decree on plastic waste management		
インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> National policy and strategy on solid waste management National Action Plan on Marine Plastic Debris, 2017-2025 	Ban on plastic bags in some cities	Finalising government regulation concerning excise on plastic shopping bag. Based on modern retailer association initiative, some stores charge IDR200 per plastic shopping bag.	Planning to use DRF scheme for PET bottle and aluminium can.	Finalising ministerial regulation on EPR road map to prevent and reduce product and packaging waste	Partially implemented in some cities and regencies.	Three pilot projects of take-back and recycle scheme for PET bottle, TetraPak carton, and flexible plastic (sachets and pouches).	Import of waste (any types of waste including plastic waste) is prohibited by Law. However, import of plastic scrap that is ready for recycling is still accepted
ラオス						Mandatory by law but not enforced	Community solid waste management project	
マレーシア	Roadmap towards Zero Single-Use Plastics (2018-2030)	Drinking straw ban	Pollution charge; Ban on non-biodegradable plastics; Levy on plastic bags		Planned –but not yet applied	Pilot level in selected city areas		Taxation of waste plastics

国	戦略	使い捨てプラの禁止	使い捨てプラへの課税や有料化	デポジット制度	拡大生産者責任に基づくリサイクル制度	分別回収	自主的取り組みやパイロット	輸入規制
ミャンマー	National MSW Strategy including plastics section					Pilot project in selected city areas		Notification No 22/2019 of Ministry of Commerce: all import of wastes to Myanmar is restricted
フィリピン	Draft National Strategy on Marine Litter to be approved	Partial bans on the use of plastic bags			Proposal under discussion in the Senate	Yes	Local bans on the use of plastic bags	
シンガポール					Reporting requirements for packaging data and packaging waste reduction plans by 2021	National Recycling Programme	Singapore Packaging Agreement; Schools Recycling Corner Programme Voluntary initiative to ban straws	
タイ	Thailand Roadmap on Plastic Waste Management	Phasing out of single-use plastics by 2022	Tax reduction for retailers using biodegradable plastics - Planning levy or tax on single use plastic products and packages	Studying possibility of deposit fund system for packaging	Development of WEEE and 3R promotion laws with concepts of EPR and circular economy	The Ministry of Interior and the Ministry of Public Health notifications on municipal solid waste separation and collection	- Pilot project on plastic waste collection in Coastal area - Reduction of plastic bag in department stores and convenience stores	Import ban on plastic wastes
ベトナム	National Strategy on ISWM to 2025, vision to 2050, National Action Plan on Marine Plastic Debris Management through 2030		Levy on non-biodegradable plastics		Not yet applied		Program on control of waste from plastic bags	Trade import regulation for quality; Considering tax for import of single-use plastics

東南アジアに集中する国際協力(某国の例)

分野	支援	支援している機関
政策と規制	循環経済戦略と行動計画	開発に関わる国連機関A
	政令策定	開発に関わる国連機関A
	使い捨てプラに関する新たな取り組み	開発に関わる国連機関A
	プラスチックリサイクルに関する新たな取り組み	開発に関わる国連機関A
	EPRのデザインと実施	開発に関わる国連機関A
	政策マトリクス	開発に関わる国連機関A
	プラスチック行動計画とロードマップ	世界最大の多国間援助銀行
	新たなローンと紐づいた 固形廃棄物管理とプラスチック管理に関する制度と政策開発	世界最大の多国間援助銀行
	海洋プラスチックごみに関する国家行動計画	環境に関わる国連機関B
	プラスチックに関する国家行動計画	IGES
	ASEANでの海洋プラに関するデータ収集支援	日本が支援しているASEANの研究機関
	グローバルなプラスチック条約での交渉および実施へ向けた支援	(国連機関AとB)
	EPRのデザインと実施	国連機関Aと 欧州系の2国間援助機関

東南アジアに集中する国際協力

G20の海洋プラスチックごみ対策行動報告書(G20の資源効率性政策対話プロセスの正式報告書であり、IGESが編集)によれば、G20のこの課題における2国間協力と多国間協力のおよそ **2/3が(35イニシアティブ中の23イニシアティブ)東南アジアに集中している。**

- この機会を海洋プラスチック問題の解決だけではなく、地域の循環経済へ向けた政策調整・協調の機会として活用すべき。
- 循環経済の主流化に向けてOECDタイプの政策分析・連携機能が、ASEAN+3地域には必要。
- ASEAN加盟国が、各国の支援をリードして、国際協調・連携へと導く必要がある。
- ASEAN加盟国の制度面、能力、関心の違いを考慮に入れたうえで、各国レベルの取組、地域の取組を推進する課題と優先事項を同定する必要あり(国家行動計画の重要性)。
- 若者や、ベンチャー企業などの取組を支援し、関係者の連携を進める必要がある。
- 循環経済の実現へ向けた入り口と、モデル的な取組を同定し、拡大生産者責任及び、官民連携パートナーシップに基づいた政策を推進するべき。

Global Plastic Agreementへ向けた含意

- 2024年合意へ向けた交渉が開始されたGlobal Plastic Agreementでは、各国の行動計画と計画の進捗報告は重要な要素となるべき。
- この政策ツールは、優先課題を各国および地域の行動計画（気候変動でいうところのNDC）へと解釈することを可能にする。各国の制度・関心が異なる中での実施を助ける。
- 国際機関間の連携も容易になる。
- 廃棄物の適正管理・リサイクルの推進へ向けた収集・処理インフラと制度の構築は引き続き重要な課題であり、投資が必要。
- その一方で、新たなサービス・ビジネスモデルの育成も不可欠。
- 民間セクターは、プラスチックへの規制にどう対処するかというよりは、新たなサービス・ビジネスモデルの育成、2次プラスチック資源市場の拡大、各国の規制や政策の調和による市場拡大にどう活用できるのかという視点から接するべき。

IGES:プラスチックと循環経済分野で東アジア・東南アジア地域を代表する政策シンクタンクに(2019年～)(1)



●G20関連プロセスの支援(2019年～)

1. 2019年のG20サミットの支援
2. G20海洋プラスチック枠組のポータルサイトの運営
3. G20海洋プラスチックごみ行動の進捗報告書の編集



●アジア太平洋地域の途上国の能力支援

1. 東アジア・ASEAN経済研究センター(ジャカルタ)に設置された海洋プラスチックごみナレッジセンターの正式なパートナー機関(2020年)
2. 欧州とASEANの共同報告書「循環経済とプラスチック:ASEAN諸国の抱える課題(英語)」の編集・執筆(October 2019)
3. 欧州と日本のグリーン公共調達政策の連携を推進。(2020年～)
4. 経済協力開発機構(OECD)のプラスチック廃棄物の将来予測と対策に関するプロジェクトのパートナー(2018年～)



IGES:プラスチックと循環経済分野で東アジア・東南アジア地域を代表する政策シンクタンクに(2019年～)(2)



Japan-ASEAN Cooperation



●ASEAN諸国の海洋プラスチックごみ削減政策の支援

- 日本ASEAN統合基金プロジェクトで、カンボジアとミャンマーを支援(2022年～)
- 国連アジア太平洋経済社会委員会と連携し、アジア4都市でのプラスチックごみ対策支援と情報収集能力の向上支援(2020年～)
- 国連人間居住計画と連携し、フィリピンで都市レベルのプラスチックごみ対策支援と情報収集能力の向上支援。(2020年～)
- ベトナムで、USAIDと連携(2022年予定)

●IGES/UNEP環境技術連携センター(SCPエリアに所属)

- 国際協力の専門家5人が葉山に常駐(2013年～)
- 途上国向けのコロナ禍と医療廃棄物管理に関するガイドラインを国連環境計画と共同出版(2020年)
- 廃棄物管理と循環経済に関する国と都市への支援(スリランカ、インド、インドネシア、ミャンマー、カンボジアなど)(2013年～)

●廃プラ対策世界最大の企業アライアンス「Alliance to End Plastic Waste」のパートナー機関に(2020年)

